

<報告書>

第1期 村おこし短期ボランティア

村おこし NPO ECOFF

2011年4月21日

第1期 村おこし短期ボランティア 報告書

発行責任者：宮坂大智

1, 概要

地域	鹿児島県鹿児島郡十島村中之島
期間	2011年3月4日～15日（12日間）
引率	宮坂大智、秋山 梢

2, 参加者名簿

名前	性別	学校名	学科名	年齢	出身地	ニックネーム
荒金 由美	女	東京農業大学	地域環境科学部造園学科	21	東京都	ゆみ
櫻木 隆太	男	中央大学	文学部 社会学科	22	千葉県	さくちゃん
高 裕佳子	女	-	-	27	京都府	ゆかつぶす
細澤 満美	女	日本大学	生物資源科学部 国際地域開発学科	20	神奈川県	まみすん
原島 裕英	男	文教大学	国際学部 国際関係学科	22	東京都	はらしー
畠中 俊樹	男	京都大学	法科大学院	23	京都府	としちゃん
近藤 大輔	男	東京農業大学	国際食料情報学部 国際農業開発学科	22	愛知県	こんちゃん

3, 活動報告

日付	活動内容
3月4日	鹿児島集合、中之島へ向け出発（フェリー泊）
3月5日	歴史民俗博物館の見学、御岳山登山
3月6日	島ラッキョウの収穫、御池トレッキングロード散策
3月7日	コテイサンの竹林整備、トカラ馬の説明と餌やり
3月8日	コテイサンの竹林整備、七ツ山海岸にて磯遊び
3月9日	収穫した島ラッキョウの出荷準備、ヤルセにて作業の確認と観光
3月10日	収穫した島ラッキョウの出荷準備、ヤルセにてキクラゲの駒打ち作業
3月11日	南の海岸線をトレッキング、平瀬にて貝採り
3月12日	ショウコウミカンの植え付け、ヤルセにてキクラゲの駒打ち作業
3月13日	休日、宿舎清掃、温泉、島内見学
3月14日	ショウコウミカンの植え付け、ヤルセにてキクラゲの駒打ち作業、中央線の清掃
3月15日	卒業式に参加（ツアー終了）

4, 具体的な成果

島ラッキョウ	半日の作業で約 100kg 収穫した。
コテイサン	2 日間の作業で約 2 反の竹林を間伐した。
キクラゲ	3 日間の作業で 6000 の駒打ちした。
サンセベリア	半日の作業で約 2 反のサンセベリア畑に 90 袋の堆肥を撒いた。
ショウコウミカン	2 日間の作業で 40 本を植え、盛土と 45 袋の堆肥を撒いた。
その他	焼畑や宿舎の掃除、中央線の掃除、西区温泉の掃除などをした。
<p>様々な農作業のお手伝いをさせていただくことにより、参加者の農業の経験・知識がそれぞれ養われたと同時に、作業と並行して海や山の観光をしたことで、島に対する理解をさらに深めることができました。</p> <p>宿舎では参加者同士で食事の用意など、身の回りのことを行ったので、参加者同士の交流を深めることができました。また、約 10 人分の食事を作るという作業も未経験の参加者が多く、自炊の経験にも満足している参加者が多かったようです。</p> <p>当初は、農家ではなく、開発センターに宿泊することで、人々との交流が少なくなってしまうのではないかという懸念があったのですが、逆に開発センターに訪れた移住予定の方や、観光に来た方などとお話をする機会を持つことができ、よい経験となったのは一つの発見でした。</p>	

5, 会計報告

科目	摘要	数量	小計	合計
旅費交通費	飛行機、高速バス、フェリー（往復）	2 人	-	73,640
旅費交通費	開発センター宿泊費	2 人	20,000	40,000
旅費交通費*	フェリー	7 人	-	76,940
旅費交通費*	開発センター宿泊費	7 人	20,000	140,000
飲食費*	滞在中の食材費	9 人	-	49,682
会議費	本事業に関わる会議費	-	-	¥10,901
広報宣伝費	本事業に関わる広報宣伝費	-	-	¥8,433
その他	その他、必要な機材や小物等	-	-	¥6,295
合計				¥405,891

※「*」が付属している科目は、参加者のための経費。今回は金額に関わらず¥20,000-のみ参加者が負担（合計¥140,000-）。

本ツアーは、村おこし ECOFF と、NPO 法人トカラ・インターフェイスが協働するモニターツアーとして行われたため、収入¥140,000-に対する支出¥405,891-の差額¥265,891-は ECOFF と NPO 法人トカラ・インターフェイスが補填する形で会計が行われた。

6, 今後のツアー実施にあたって

今回のモニターツアーは、参加者の反応や実際のツアーの様子を把握することで、今後のツアー作りをより良いものにしていくためのものと位置づけており、そうした意味で、今回のツアーは実りの多いものとなりました。

当初は、トカラ列島という首都圏から非常に離れた場所にまでやってきて農作業をすることに価値を感じる学生がいるのかどうか、はなはだ疑問ではあったのですが、結果的に3月の実施までほとんど日数のない1月下旬からの、たった3週間の募集期間にも関わらず定員を越す応募があり、まずはこのようなツアーの需要があることを確認できたのは大きな成果だったと考えています。

その後、期間の限られた中で参加者向けのオリエンテーションを行い、その際に出席者にはトカラ列島の説明などをすることができたので、そこで参加者の不安はだいぶ払拭された様子でした。このことから、事前のオリエンテーションは、ECOFFが参加者の素性を知ることがきるという意味だけでなく、参加者も他の参加者と打ち解けるために有効だったと考えられます。しかしながら、オリエンテーションの日程を参加者の都合に合わせようとしたのは失敗でした。なぜなら、短い期間で全員の都合の合う日があるかどうかの保証がないからです。それよりはむしろ、募集時に日時と場所を指定しておいた方が、参加者もオリエンテーションの日の予定を事前に空けておくことができるはずです。

また、滞在中は想像以上に気温が低かったり、フェリーが欠航してツアー期間が長くなったりと、様々な想定外の出来事が起きました。これらについては、今回の経験を活かしてトラブルシューティングガイドを作成し、引率者に把握してもらうように工夫していきたいと思います。

全体として、参加者の満足度は非常に高かったので、今後も同様のツアーを催行していこうと考えています。より安全で安心なツアーの運営に向けて努力していく所存です。

村おこし NPO ECOFF 代表理事
宮坂大智